とく待ちわびし水の子の び笑ふ声すなり

水郷の春の昼閑か ない。 でく音うれしく聞き初め でく音うれしく聞き初め ではる野の煙 ではる野の煙 ではる野の煙 ではる野の煙 ではる野の煙 ではる野の煙 ではるりるのと ではるのとの ではるの ではる。 ではるの ではるの ではる。 ではるの ではる。 ではる ではる。 ではる。 ではる ではる ではる。 ではる ではる ではる。 ではる ではる。 ではる。 ではる。 ではる ではる。 ではる。 ではる。 ではる ではる。 ではる。 ではる ではる。 ではる。 ではる ではる。 ではる。 ではる ではる。 ではる ではる ではる。 では。 とく郭公の めね

運河一発引き抜きて えばめ まままま は去りて風熱き 岩燕は去りて風熱き

羊も寄りて草を食む しば し憩は む土手の上

> 光のどすをはいつか炎暑の こよなき季節訪れぬませるおとずませるおとず 心 ゆくまで漕がむかな 元のどけき茨戸河いのとけき次戸河のか炎暑の日はゆきて

夕練習終へるころかい先近くぼらはねて 陽はくれないに没したり Ŧ. でで高いるという くなりにけ ζ Ż ń

冬もま近となり 惜しみて漕がむ残る日々 をもま近となりぬれば は てて

> また来む年の幸思へいざわが友よ胸深くいざわが友よ胸深くいざわが友は胸深くいがあるが漕ぎ納め 北きたかぜ すさび雪は 舞‡ Ŋ